

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年7月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671000224
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	鹿児島県指宿市東方314-1 (電話) 0993-22-1030
自己評価作成日	平成28年6月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年6月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・私たちの理念のもと、明るく和やかな雰囲気の中で、ご利用者様一人ひとりと職員一人ひとりが大切な家族の一員となり、喜びや楽しみ、辛い思いを共に味わいながら、日々の生活を送っています。

その暮らしの中で生まれる葛藤については、認知症の専門職として、知識・理解を積極的に学ぶ機会を設け、実践することで良い方向へ導けるように、また、ご利用者様中心のケアの実践に可能な限り近づくように努めております

・ご利用者様・職員の健康面においては、運営母体のクリニックに加え、医療連携看護師による日常的な健康管理で体調を整え、精神的なフォローを受けることが出来ます。また、急変時の支援体制も整えられているため、安心した生活を送ることが出来ています。

指宿市郊外の自然環境に恵まれた閑静な住宅街に立地しているグループホームである。早くから自治会に加入し、清掃活動や一斉避難訓練などへの参加や利用者も地域の一員として回覧板を届けたり地区の敬老会に参加するなど地域の理解と協力のもと良好な地域交流がなされている。又、ホーム主催の避難訓練や慰労会にも地域の方々や地元消防団の参加があり災害時の協力関係も築かれている。外出の機会が多く、日常のホーム周辺の散歩や外気浴はもちろんのこと、地域行事見学や足湯、弁当持参での遠足や家族の参加もある食事会、ときには、音楽会や文化祭見学等にも出かけて外出は利用者の楽しみとなっている。医療法人である母体医療機関の協力により重度化や終末期における医療連携や支援体制が整備されて、本人・家族の希望に沿った看取り支援にも取り組んでいる。また日常的な健康管理がなされ本人・家族の安心に繋がっている。ユニットをまたいで職員体制をとっており、全職員が全利用者の状況を常に把握できるように情報の共有を徹底し、職員間のコミュニケーションが図られて離職の少ない職場となっている。職員の自己研さん意欲も高く働きながらレベルアップに向けた資格取得にも積極的にチャレンジして現在介護福祉士9名ケアマネ1名と知識と経験の豊富な職員が多数確保されている。管理者・職員は自己評価にも真摯に取り組み質の高いサービスの提供を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	私たちの理念を目標に、利用者の方へ接する際の心構えを確認している。職員間では、気持の共有を図るために、毎朝の朝礼時に元気よく唱和を行っている。	理念はホームの目標、大切なことばとして毎朝朝礼時に唱和し、意識付けを行って理念の共有と実践に繋げている。パンフレット、ホーム便りにも掲載して家族にも理念を啓蒙している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や地域活動、行事等に積極的に参加したり、地域の方々との交流を楽しみのひとつとして計画している。	自治会に加入して総会や清掃活動等に積極的に参加している。利用者も散歩や外気浴の際にあいさつや会話を交わし、回覧板を届けたり地区の敬老会にも参加するなど日常的に自然体での交流がなされている。また、ホームのバーベキューに近隣住民や地元消防団の方々の参加もあり地域と良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	職員の多くが認知症サポーターの講習を受講し、キャラバンメイトとしての活動に参加している。また、近隣中学校の体験学習の際には、認知症の人の対応方法などを実践を通してアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みや活動について報告し、事故や緊急時の対策等についての意見や助言を頂き、サービスの向上に役立っている。	会議は行政職員、公民館長、民生委員、家族代表の参加で事業所の取り組みや行事等について話し合われている。また、ヒヤリハット事例についても協議し合うなど事故等の再発防止について地域ぐるみでの話し合いがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議で利用者の現状や活動報告を行い、研修の依頼や徘徊ネットワークへの登録、日々さまざまな相談や助言を頂いている。	毎回運営推進会議に出席してもらっておりホームの状況や取り組みを伝えている。また、運営についての疑問や困難事例なども随時相談する体制をとっており、市と協働して認知症サポーター養成講座も行うなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎月開き、現状の確認を行うとともに、勉強会を定期的実施することにより、身体拘束への理解を深め、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置して毎月検討会議を行っている。また、施設内外の研修を通して職員は拘束についての知識理解を深め、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解して日常のケアで気づいたことや疑問点等ミーティング時や都度話し合うことで拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を含む勉強会を定期的実施することで、高齢者介護の専門職としての自覚を再認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修課題として取り入れ、必要性を感じる利用者・家族については、行政担当者も交えた、制度についての説明のもと、活用に向けた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に運営規程や重要事項の説明を行い、確認を頂いている。契約の締結、改定等の際は文書で説明、疑問点については、十分な補足を交えた説明の上、理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、要望は常に有難く受け止める姿勢を持ち、相談しやすい環境を作っている。また、ご家族の面会時には積極的に話をする機会を設け、意見や要望の把握に努めている。	家族からは来訪時や電話連絡時、運営推進会議、家族会、ホームの催し物等で意見・要望を聞き出すように努めている。また、家族会は外出レクも兼ねており職員とのコミュニケーションや話しやすい雰囲気を作っている。利用者からは会話や表情・態度などから察して対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、いつでも出し合える環境にある。出された意見については、改善策を探り活かすことで職員の意欲向上につなげている。	毎月のミーティングで意見・提案を話し合っている。また、ユニットをまたいで職員体制をとっており申し送りや「共有ノート」で情報の共有を図っている。管理者は日頃より職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を出しやすい雰囲気作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はすべての職員の現状を把握し、安心して働ける職場環境を整えている。また、現場の意見を尊重して、よりよい職場環境となるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のその段階に応じた研修を受ける機会を設けている。また、職員に今何が必要かを話し合い、施設内研修を開催することで、サービスの質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入、積極的に参加することで、管理者、職員が交流できる場や勉強会の場を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの開始前には、本人の性格やこれまでの生活歴などを出来る限り把握した上で、現在抱えている思いを伝えられる関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの開始前には、入所に至る経緯や本人、家族が何に困り、何を求めているのかを理解することに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービスの開始前に、これまでの生活においての問題点やこれまでどのような支援を受けながら生活されていたのかを伺い、同時に関係者からの情報を頂きながら支援の方向性を決めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>私たちの理念のもと、お互いが大切な家族の一員と感じられる関係作りに努め、日々の生活を送っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所の際には、利用者様を家族、職員と共に支えていきたいとの希望をお話させて頂いている。介護職が主となる部分と、本人・家族のサポートにまわる部分を見極め支援に当たっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大事な習慣（墓参り、家族の誕生日のお祝いなど）や楽しみとしていた外出（趣味の演芸や花など）に積極的に出掛け、交流のあった方々と会う機会を作っている。	入居前の人間関係や社会との関わりについてはセンター方式の「基本情報」に詳細に記載して関係が途切れないように支援している。家族の協力をもらいながら墓参りやお祝いごとのための一時帰宅など外出する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や関係を把握した上で、楽しく会話ができるように席を常に工夫したり、難聴の方との会話の交流を手伝いながら、関わりあえる機会を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所の場合も、職員が面会へ伺い、入院中の不安や相談を聞き、関係者と話し合うなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時・日々の生活の中での会話、定期的なモニタリングで把握に努めている。日々の細かい情報については、共有ノートを活用し、情報の共有を図っている。困難な方は、言葉や表情をよく観察しながら、本人の思いを汲み取れるように努めている。	入居時の基本情報や日常生活のなかでの会話や表情・言動などから思いや意向を把握している。また、職員が気づいたことを書き込める「連絡帳」も活用して情報を共有し最善の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用して、ご家族の方にも協力を頂きながら、把握に努めている。在宅のケアマネージャーとの連携も取り、情報を頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が1日の状態や過ごし方を観察、記録の上職員間で共有している。同時に介護にあたる上での気付きを常に話し合うことでサービス内容の変更や現状の把握へ繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで本人の希望や意向の把握に努めている。また、いつも側で支援に当たる職員の気付きやアイデアについて職員間で話し合い、介護計画を作成している。	利用者や家族の思いや意向を把握するとともに毎月のミーティング時の話し合い、モニタリングを基に介護計画を作成している。また、本人や家族の変化等に応じて随時関係者間で意見交換し現状に即した介護計画となるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個人記録へ記入し、職員の気づきや工夫・結果については、連絡帳に記載し、情報を共有している。必要があれば、24時間シートを用い状態の把握に努め介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が抱える新たなニーズに対して、ご家族と共に最良の支援方法について十分に話し合い決定している。ご家族の状況等も出来る限り考慮出来るよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民やボランティア団体参加の祭りの企画や中学生の体験学習の受け入れ、地域主催の文化祭や行事へ積極的な参加する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向や受診状況などを入所時に確認し、希望するかかりつけ医の受診・往診の依頼を行っている。法人の医療連携や医師の診療も受けられるよう支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医となっている。受診は本人・家族の状況に応じてホームからも柔軟に対応している。日常的な健康管理がなされており、家族・職員の安心にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者様の状態を常に観察、把握に努め、普段と違う様子に気付いたら直ちに医療連携看護師へ相談、必要があれば受診・往診を受けられるように支援している。週に1回の連携看護師による健康管理も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、必要な情報を病院関係者に提供している。入院中も頻回に面会することで、本人の現状の把握と家族の抱える不安の相談に乗りながら本人、家族が安心して退院できるように働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人、ご家族に重度化や終末期に向けた方針について説明、話し合いを行っている。入所後も状態の変化に合わせて主治医やご家族、他職種と方針を共有し、関係者と共に最大限の支援に取り組んでいる。	重度化及び看取りの指針を作成して入居時に説明し同意を得ている、入居後は状態変化に伴って医師の判断のもと家族と方向性を共有して最大限の支援に取り組んでいる。母体医療機関と24時間連携が図られて医療の支援体制が整備されており本人・家族の希望による看取り支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命・救急訓練を定期的に体験し、自施設研修では、様々な状況に応じた対応法について学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の昼夜を想定した避難訓練を近隣住民の協力の下、実施。日頃から防災設備の配置の使用方法及び避難方法等の確認を行うことで全職員への意識づけを行っている。</p>	<p>年2回消防署立ち合いのもと避難訓練を実施しており、近隣住民や家族の参加も得られている。また、ホームのイベント時に地元消防団の参加もあり、ホーム内の様子を把握してもらうなど協力関係が築かれている。緊急連絡網に近隣の登録もあり、自動通報装置、スプリンクラーも設置されて備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時の接遇マナー研修の実施、プライバシー保護についても勉強会を実施することで日頃の言葉かけや対応について振り返る機会を作っている。	入職時に人権の尊重や接遇マナーに関する研修を徹底している。その後もプライバシーに配慮した介護について勉強会や都度話し合うなど機会を設けている。常に利用者にとって最善の支援に取り組み実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人が思いや希望を伝えやすい関係作りを心がけ接している。その中から表れた思いや希望に添える方法を家族や本人と話し合えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはほぼ確立しているが、その人のその日の状態や、気分に応じ柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者様の以前からの習慣を尊重して、その人らしい身だしなみや着慣れた服を準備する等、出来なくなったことを手伝い支援している。特別な日には事前に、特別なおしゃれが出来るように本人と相談し決定している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の下ごしらえや準備などのお手伝いして頂いている。好みや形態についても本人の要望や意見を取り入れ、季節の食材、献立を毎食時分かりやすく説明し、食事が楽しみの一つとなるよう工夫している。	献立は法人の栄養士のアドバイスももらいながら栄養バランスのいい家庭的な食事を提供している。家庭菜園の収穫や梅ちぎりなどで季節を味わい、ときには、ファミレスや弁当持参の外出レクに出かけるなど「食」を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食事を参考にしながら、献立を作っている。食事制限や好き嫌いの状況には個別に対応しながら偏りのない献立を工夫している。水分量はチェック表を用い、好みに合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の口腔状態に合わせたケア用品を使い実施している。必要に応じては、かかりつけ歯科医の訪問を依頼、相談しながら支援の方法を学んでいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態にあった方法を検討し、安全にポータブルトイレやトイレの使用が行えるように支援している。排泄意を訴えない方は、排泄のパターンを職員が把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を促している。	「排泄表」において個々のパターンを把握し、身体状況に問題がなくトイレ誘導が必要な方には自尊心に配慮したさりげない声かけ誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による様々な弊害を理解し、個人の排便状態を細かく記録、連携NSへ報告されている。日常的には、水分摂取量の確保や食物繊維の多い食材を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者との話し合いの上、基本的な設定はあるが、その日の状態や希望に配慮し柔軟に対応している。また、個人の習慣を尊重し気持ち良く入浴が出来るよう支援している。	基本は一日おきではあるが個々の希望や状況に応じて柔軟に対応している。ときには、足湯に出かけたり家族の協力のもと温泉に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に気を配りながら、ゆっくりと休める環境づくりに努めている。一人ひとりのこれまでの習慣を崩すことなく、気持ち良く眠れるよう室温調整、寝具調整を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、確実に服薬されるよう支援している。本人の状態の変化や薬についての疑問は主治医や連携NSへ相談できる環境が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることを本人の役割となるよう取り組み、買物に出かけられるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩やドライブに出掛けたり、付き添いが難しい時には、ご家族や知人（近所の方）へ協力を依頼するなど、出来る限り本人の希望に添えるよう支援している。	日常的にはホーム周辺の散歩や外気浴、ドライブなどに出かけて気分転換を図っている。また、家族の協力ももらいながらの個別の外出や家族を交えての外出レクにも出かけている。毎月外出の計画をたてて外食や足湯、季節の花見や遠足、市図書館での音楽会、地域行事見学などと外出の機会が多く利用者の楽しみとなっている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望や力に応じて所持している。困難な利用者については、ご家族の理解の上、預かり金として管理し、日用品や嗜好品を常時購入出来るようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも電話が掛けられるようにホールに電話を設置し、電話を掛けるお手伝いをしている。聴力障害のある方には、日常の様子を伝える手紙を書くことをすすめ、家族との繋がりを大切に支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、季節の花を置いたり、共同作業で取り組んだ壁飾りで生活の中に季節感を取り入れている。ホールには、台所が隣接されており、食事の準備や音、においを感じる事ができる。</p>	<p>ホールの中央に位置する共用空間は各居室から利用者が自然と集まる空間となっている。温度や換気が管理され居心地よく過ごせる空間となっている。壁には利用者の作品や季節の展示物が飾られて四季を感じてもらえるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間の広さが限られているが、利用者様が利用しやすく、落ち着ける位置を考えてソファや椅子を設置している。屋外にも椅子を設置し、気候の良い日は日光浴を楽しまれている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時、本人やご家族へ使い慣れた家具や品物を可能な限り持参して頂くようお願いしている。また、家族を身近に感じられる品々は目に付く場所に飾り、本人の空間を作るよう工夫している。</p>	<p>テレビ、ラジオ、机といす、家族の写真、お気に入りの飾り物などが持ち込まれて居心地よく過ごせるように配慮されている。また、趣味の折り紙作品や書道などが飾られ個性的な居室となっている。各居室洗面台が備え付けられており整容の自立にも結び付いている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの身体機能の把握に努め、手すりの位置や動線の確保、居室内では好きなことが自由に安全に出来る家具の配置など現状に合った環境整備を必要時に検討している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない